

# がれき受け入れ 知事ら宮城、岩手県視察

## 安全性確保で確認書

### 両県と「復興へ向け前進」

鈴木英敬知事と県市長会 町長は二十七日、宮城、岩手受け入れに向け、鈴木知事、会長、亀井利克名張市長、手の両県を訪れた。東日本町村会会長の谷口友見大紀 大震災で発生しがれきの



がれきの放射線量を確認する鈴木知事（中央奥）、亀井会長（右から2人目）、谷口会長（同3人目）ら岩手県宮古市で

受け入れに向け、鈴木知事は宮城、岩手県が搬出まで安全性を確保するとして確認書を、村井嘉浩宮城県知事、達増拓也岩手県知事と締結。両県のがれき仮置き場なども視察した。

鈴木知事と亀井、谷口両会長は宮城、岩手両県庁で村井、達増両知事とそれぞれ面談。可能な市町からがれきを受け入れることで県と市長会、町村会が合意したと報告した。村井知事は「（県と市町が）まとまって取り組みを進めていたのは、全国で三重県だけ」と謝辞し、達増知事も「復興に向かって大きく前進することが期待できる」と喜びを語った。

確認書は、受け入れるがれきの対象は木くずや廃プラスチックなどの可燃物とする▽引き渡すまでの安全性確保については宮城、岩手両県が責任を負う―などの内容。今後の受け入れに向け、基本的な事項を盛り

うJV（共同企業体）が、搬出までの流れを説明した。また、担当者が空間放射線量を測って見せると毎時〇・〇六マイクロベルトで、三重県内と同水準だった。今回の視察について亀井、谷口の両会長は「かなりきちっと管理されている」などと感想を述べ、受け入れを検討する市町には視察を勧めたいとした。鈴木知事も「これを参考に引き続き、市町と県で安全性の確保に向けたガイドラインの策定を進めたい」と語った。（森川静香）